

# 幸世の歌



枝幸町就農者誘致促進セミナーでの今年度の就農者と研修生の紹介の写真。  
左から、孫観、孫相虹、廣山辰徳、廣山智尋、中新井田光、深田雄也、合田広規、久保拓巳。

JA宗谷南

2019NEN  
8GATUGOU  
~SEASON71~

# 枝幸町就農者誘致促進セミナー

## 枝幸町就農者誘致促進セミナー演目

基調講演	「最近の酪農をめぐる情勢」	農林水産省畜産部畜産企画課畜産経営安定対策室 課長補佐 今崎 裕一
演 題	「私の気持ちを動かした酪農の魅力」	枝幸町就農研修生 久保 拓己
演 題	「自分が思い描く酪農」	枝幸町歌登 後藤牧場後継者 後藤 亮介
演 題	「枝幸町の就農者への支援体制について」	枝幸町農林課副主幹 油矢 雅人
演 題	「JA宗谷南の研修制度について」	JA宗谷南営農部営農課長 浜田 和幸
演 題	「宗谷南酪農ヘルパー利用組合の体制について」	宗谷南酪農ヘルパー利用組合 組合長理事 小林 政夫
演 題	「規模拡大をした自覚」	枝幸町山日 枝幸ヒロヤマファーム 廣山 辰徳 廣山 智尋
演 題	「北海道酪農の展望と可能性について ～北海道で酪農経営を目指す皆さんへ～」	北海道農政部 次長 宮田 大
演 題	「農場リース事業について」	北海道農業公社道北支所次長 木村 一宇
演 題	「支援資金について」	JA北海道信連旭川支所融資課長 今村 恵輔
演 題	意見交換会「それぞれの専門分野から見える就農とは」	パネリスト5名
視 察	牧場視察	ファームAYNI
終	了	



8月21日、歌登フォレストピアホールにて、枝幸町就農者誘致促進セミナーが開催されました。同セミナーは枝幸町農業推進連絡協議会の就農者誘致促進部会が主催で就農希望者や農業関連大学の学生、関係機関などおよそ150名が参加されました。

開会の挨拶で、部会長でもある向井地組合長より、「全国的に農業就農人口の著しい減少の中、他産業も含めて担い手不足が深刻な問題となつている。枝幸町においても基幹産業である農業を守る事は地域を守る事と思ひ、このセミナーもその活動の一端であり新規就農にこだわらず、他の地域からの移転も歓迎したい。」と同セミナーへの理解を求め挨拶しました。

セミナーの始めは、基調講演としまして、農林水産省畜産部畜産企画課畜産経営安定対策室の今崎課長補佐より「最近の酪農をめぐる情勢」と題し、近年の目まぐるしく変化する農業情勢、特に酪農については、農家戸数は減少傾向にあるが、1戸当たり飼養頭数は増加し、生乳生産量は横這いにあります。その中でも全体の生産量の半分は北海道で生産しており、食糧基地である事の再認識をした上で、酪農に対しICTやロボット技術の活用した生産性の向上・省力化、労働負担軽減、後継牛確保などへ向けサポートできるような補助事業の整備、また就農者支援として複数の事業を用意していますので活用して頂けたらとの説明があり、就農者に対しては、地域の支援が大変重要で、同セミナーのような取

組を今後も継続して頂きたい、そして就農された方は経営者としての自覚をもつてほしいと締めくくりました。

次に「私の気持ちを動かした酪農の魅力」と題し、今年室蘭市から就農を目指し枝幸町へ移住し就農研修生として勉強中の久保拓己さんが発表してくれました。

久保さんは、三重県出身で北海道への憧れと、動物が好きであったことから、将来は酪農家になりたいと学生の頃から考えており、昨年、札幌の就農フェアに参加し枝幸町のブースを訪れ、同年の枝幸町就農者誘致促進セミナーへ参加し、多くの方々とお会い、枝幸町で酪農がやりたく、現在に至った経緯を発表してくれました。また、研修を始めてから、酪農の機械化が予想以上に進んでいるが、力仕事も思った以上に必要であることや将来の自分の目指す経営スタイルも語ってくれました。



農林水産省畜産部畜産企画課畜産経営安定対策室 今崎裕一課長補佐の基調講演の様子

次に歌登の後藤牧場の後継者である後藤亮介さんが「自分が思い描く酪農」と題し発表してくれました。

後藤さんは、就農した当時の経緯と苦労した事を振り返り、自分の思い描く酪農を目指す為に足りないものを農協をはじめとする関係機関に協力を求め、自分自身ももっと酪農に対する知識や経験を積む必要があるとし、計画的な投資計画を樹立した上で、思い描く夢に一步步進んでいる事を発表し、夢をかなえる為、共にこの枝幸町で酪農を始めませんかと呼びかけました。

次に「枝幸町の就農者への支援体制」：「JA宗谷南の研修制度について」を各担当者が説明し、続いて「宗谷南酪農ヘルパー利用組合の体制について」を小林組合長から説明して頂きました。

次に今年就農した孫さん夫婦と廣山さん夫婦、又、現在就農研修生の、中新井田さん、深田さん、合田さん、久保さんの8名の方が登壇し紹介されました。

昼食を挟み午後からは、今年枝幸町で移転就農した廣山さんが夫婦で発表してくれました。

昨年の同セミナーでは、自己紹介を兼ねた枝幸町へ移転就農する経緯を発表してくれ、そして今年7月に無事に就農し規模拡大の夢を実現した事について発表し、題して「規模拡大をした自覚」として、廣山さんの酪農を長く続けたいという思いと、お世話になった方への恩返しの意味も含めて、枝幸町で1番の生乳生

産量を目指す決意を語ってくれました。

次は、北海道農政部宮田次長より「北海道酪農の展望と可能性について」を講演して頂きました。

宮田次長によると、北海道において過去20年で酪農へ新規参入者戸数は1番多いのが別海町で65名、枝幸町は17名で4番目に多く、その理由を親身になってくれる支援体制ではないかと分析、また宗谷の広大な草地を最大限活用するため、酪農情勢のいい今こそ草地に投資するべきだと述べました。

次からは、就農するための施策として、北海道農業公社道北支所木村次長、JA北海道信連旭川支所今村融資課長より説明を頂きました。

続いて、「それぞれの専門分野から見える就農とは」をテーマに意見交換会が行われ、パネリストには、北海道農政部宮田次長、枝幸町農業委員会高橋会長、栗山町農業公社本田事務局次長、(株)マイナビ農業活性事業部竹内沙季さん、今年就農研修生となった久保拓己さんの5名が任命され、熱く就農に関し意見交換を行いました。

セミナーの最後は、(株)アグリサポート枝幸ファームAYNIの視察を行い、最新のロボット搾乳施設を見て頂きました。視察終了後、コテージの里センターハウスへ場所を移し交流会が行われ、情報交換や親睦を深める有意義な一日を過ごし、セミナーは終了しました。



廣山夫妻の発表の様子



後藤牧場後継者 後藤亮介さんの発表の様子



就農研修生 久保拓己さんの発表の様子



北海道信連旭川支所 今村融資課長 支援資金についての説明の様子



北海道農業公社道北支所木村次長 農場リース事業についての説明の様子



北海道農政部 宮田次長による講演の様子



ファームAYNI視察の様子



意見交換会の様子



意見交換会での質疑応答の様子



# 全道初、地域外移転就農

7月1日より、帯広市から移転就農し、山臼にある有限会社ヤマウスファームを引き継ぎ新たに合同会社枝幸ヒロヤマファームとして設立しました。

道内初の試みとして新聞等メディアにも取り上げられましたのでご紹介いたします。

## 帯広の夫婦 牧場規模広げる夢実現

# 酪農 枝幸が新天地

【枝幸】帯広市で酪農を営んでいた広山辰徳さん(31)、智尋さん(28)夫妻が、牧場の規模拡大を目指して宗谷管内枝幸町に移住し、新天地での牧場経営を始めた。帯広では農地が確保しづらく、規模拡大は難しかったが、枝幸では以前の牧場の4倍の農地を手に入れ、地域の中心となるような酪農家を目指す。帯広から枝幸へ酪農の拠点を移すのは初めてのケースで、両地域の関係者は今後、の先行例として期待している。(高尾晋)

広山さんの帯広時代の牧場の資金で、用地を取得しては牛55頭、農地は30畝。牛舎の更新に合わせて、規模拡大を検討したが、帯広では土地代が高く悩んでいたところ、2017年夏に所属する帯広市川西農協の有塚利宣組合長から枝幸移転の提案を受けた。その後、枝幸の下見を重ね、宗谷南農協(枝幸)の向井地信之組合長とも面談。帯広で土地を買う場合の10分の1程の敷地120畝となり、事業規模を帯広時代の4倍に拡大した。

## 農協が移転後押し 「地域1番目指す」

大した。



智尋さんは「帯広は手狭で選択肢が限られた。ここでは農地として使っていない土地がまだ80畝あり、もつと牛を増やすことができると喜ぶ。辰徳さんは「帯広を離れるのは名残惜しい気持ちもあるが、枝幸で1番の牛乳生産量を目指したい」と意気込む。

広山さん夫妻を迎えた枝幸町は、就農支援を手厚くするため、本年度から町内での就農奨励制度を拡充。5年間で500万円だった奨励金を、生産乳量が年間千ト以上ならば、1千万円交付する仕組みに変更した。経営が順調ならば広山さんも対象となる可能性は高い。

2人を送り出した帯広市川西農協の有塚組合長は「北海道はひとつ、どこで農業をやってもいい。後に続く人の手本になってほしい」と激励。宗谷南農協の向井地組合長は「理想の酪農が枝幸で実現できるよう支援していきたい」と話している。

「枝幸ヒロヤマファーム」を訪れた帯広市川西農協の有塚利宣組合長(中央)から激励を受ける広山辰徳さん(右)、智尋さん夫妻(枝幸町山臼)

# 畜産クラスター事業需要高まる

枝幸町の畜産クラスター事業は、平成27年に枝幸町畜産クラスター協議会が発足、同事業を活用しクロキファーム株式会社で130頭規模のフリーストール牛舎を新設したのを皮切りに、今年歌登大奮の株式会社J・C(澤田和人代表)と山臼の合同会社ファーム和楽(山岸也須彦代表)が畜産クラスター事業を活用し規模拡大を行います。

両牧場の建設スタートを祝うかのように晴天の中、7月8日両牧場の地鎮祭が執り行われ、枝幸町、宗谷南農業協同組合、各関係機関、工事関係者が出席の中、工事の安全を祈願しました。

## 株式会社 J・C



### 【施設概要】

FS牛舎(最大222頭を管理できるオールインワンロボット牛舎)

[搾乳牛150床 乾乳29床 育成16床 分離牛21床 独房6床]

搾乳ロボット3基・バルククーラー15,000L・スラリーストア1基・

排水処理施設

年間生乳生産量2,000tを目指す。

## 合同会社ファーム和楽



### 【施設概要】

FS牛舎1棟(130床)

バンカーサイロ

搾乳ロボット2基・バルククーラー5,000L2基・餌寄せロボット

既存牛舎と合せ、年間生乳生産量2,000tを目指す。

## 組合員親睦交流会

7月26日酪農振興センターにて、組合員親睦交流会が行われました。

組合員及びご家族様、来賓として各関係機関からおおよそ130名が集まり、生憎の雨の中、焼肉を囲みながら楽しい時間を過ごしました。

親睦交流会では、多くの子供たちも参加し焼肉やアイスをおいしそうに食べていました。

後半では、おたのしみ抽選会を行いペア宿泊券が3名、他にも商品券など豪華景品などが当たり大いに盛り上がりました。





# 第13回 枝幸町乳牛共進会

8月5日歌登共進会場にて、第13回枝幸町乳牛共進会が開催されました。今年は10戸32頭の出品があり、乳牛としての資質を競い合いました。審査員は、一般社団法人ジェネテイクス北海道道北事業所営業課主幹の木本洋一氏が務め、各部慎重に審査され、乳牛の質の高さと、日頃の乳牛改良の成果に賞賛されていました。

審査の結果、未經産の部では、内田喜久男さん出品の6部「ウチ プロフィット ソロモン マークイス」が、経産の部では小椋義則さん出品の7部「オムラ フジサン ブラック ET」が最高位賞に輝きました。

各部で上位成績を残した乳牛は、8月24日に行われた道北共進会に出品しました。(結果は次号掲載)



## 枝幸町乳牛共進会 各部1位

部	名 号	生年月日	血 統	出 品 者
1	マタドーア ドック ステラ	30.11.09	ウツクスト キング トツク マタドーア メイ モントレー ステラ	赤坂 一弘
2	マタドーア ジャコビー クレア	30.09.14	ウツク トアマン シヤロビー ET マタドーア インクラント アフター クレア	赤坂 一弘
3	ハッピーライン ジャコビー ラスター	30.06.13	ウツク トアマン シヤロビー ET ハッピーライン キヤパルチーフ ラスター	内田 喜久男
4	オムラ MS エーテルワイス	30.05.12	ミスター キヤパリー コールド フィフ ET オムラ トーマン エントリー ET	小椋 義則
5	ウチ ソロモン サツキ ハーゲン	30.02.01	ウオルガットロン ソロモン ET ウチ フユース サツキ ハーゲン	内田 喜久男
6	ウチ プロフィット ソロモン マークイス	29.12.07	ウオルガットロン ソロモン ET ウチ プロフィット サツキ マークイス	内田 喜久男
7	オムラ フジサン フラツク ET	29.10.02	ウオルガットロン ソロモン ET オムラ シェイデン ET	小椋 義則
8	HL エレガンス マウンテン シド	28.08.11	クラスタール ハンカール ET HL エレガンス シド	小椋 孝則
9	サンディアレイン ファイバー クストー	26.12.09	クラックホーム ファイバー ET サンディアレイン ショーダン クストー	小椋 義則
10	M. F. トライユーン チツフ	26.07.25	ミスター キヤパリー コールド フィフ ET MF トライユーン ファイバー	関口 真也



デイリークイーン  
JA宗谷南営農部営農課  
武田蓮美さん



審査員の木本洋一氏

## 最高位・準最高位

部	賞	名 号	出 品 者
未經産クラス	最高位	ウチ プロフィット ソロモン マークイス	内田 喜久男
未經産クラス	準最高位	マタドーア ジャコビー クレア	赤坂 一弘
経産クラス	最高位	オムラ フジサン フラツク ET	小椋 義則
経産クラス	準最高位	HL エレガンス マウンテン シド	小椋 孝則



経産の部 最高位「オムラ フジサン ブラック ET」



未經産の部 最高位「ウチ プロフィット ソロモン マークイス」

# サマーフェスティバル

## 2019

8月15日、町営歌登サブ球場にて、毎年恒例のサマーフェスティバルが開催されました。

当日は、JA宗谷南青年部と農協職員総勢10名が牛乳の消費拡大PRとミルクランドグッズの無料配布を行いました。

今回用意した牛乳・コーヒー牛乳150セットが無事渡し切れるか不安でしたが、「みるきいちゃん」の登場もあり、たくさんの方にご来場頂き、わずか10分で配布完了しました。

次回の牛乳無料配布は9月のよくばりフェスタで行いますのでぜひ皆様お越しください。



# 公共育成牧場

## 1番草収穫作業

7月7日～11日で育成牧場の牧草収穫が行われ、職員も応援に駆けつけました。

5日間とも霧で作業に支障が出る事もありました。収穫量としては平年より少なく、ロール牧草を断念し1番草ではバンカーサイロのみとなりました。5日間でバンカー4本、ダンプでおよそ250台近くの牧草を詰め無事に収穫作業は終了しました。

公共育成牧場ではそろそろ2番草の収穫が始まります。皆様も農作業事故に気を付けていきましょう。

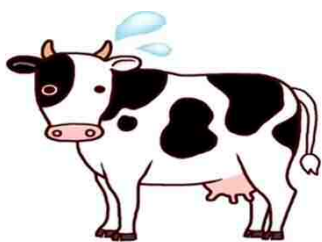
# 授精所だより

## アブの生態と防除法について

アブは、その吸血行動によって牛に多大なストレスを与えます。その結果、増体率や乳量の低下等を引き起こすだけでなく、白血病ウイルスをはじめ、感染症の伝播や未経産牛の乳房炎の一因となります。

アブは、吸血するのは雌のみで、卵巣の発育に必要な栄養を得るためです。吸血の他は、雌雄とも花蜜や樹液を摂取して生活しています。したがって、人や家畜を襲う個体は全て雌ということになります。

人や家畜への吸血嗜好性はアブの種によって若干異なり、家畜ではよく吸血しても、人には殆ど来ないものがあります。



## 防除法

### (1) 発生源対策

放牧地周辺の湿地をなくしたり、水路を整備することにより、湿地からのアブ発生を少なくすることは可能です。また、産卵場所に生えている植物を刈り取ることも、有効と思われる。

### (2) 薬剤の畜体施用

アブはごく短時間しか畜体で吸血しないため、かなり速効的な殺虫剤でないと、寄生阻止の効果が期待できません。アブに対する忌避剤も、今のところ長時間有効なものはありません。

### (3) 物理的防除

アブの進入を防ぐために、畜舎の窓に防虫網を張ったり、入口に縄のれんを垂らしたりすることは、実効のある方法です。

### (4) 生物的防除

生物間の食物連鎖や生存競争など、生物の活動を利用した防除法です。アブの卵に、かなり高率でタマゴバチ類の寄生がみられ、また幼虫、蛹、成虫の各期にもそれぞれ多くの天敵類がいます。外国では、畜舎の周囲にクルミの木を植えておくと言われているようですが、真偽の程は分かりませんが、

### (5) トラップ法

最も強い誘引物質は動物が呼気として排出する炭酸ガスです。そこで、現在市販されているアブトラップでは、誘引源にドライアイスかボンベ入りの液体炭酸ガスを用いています。問題は、ドライアイスはその都度補給したり、ボンベのバルブを手で開閉するのに労力がかかることです。

まとめ

この様にアブの防除は他家畜害虫に比べ困難で、適切な防除法は確立されていないことがわかりました。各種方法を組み合わせ、被害軽減のためのアブ対策を立てることが必要と思われまます。何よりも牛にストレスを与えないことが大切です。

・ N Q S A I オ ホーク  
ホームページ  
・ 早川博文「アブの生態とその防除法」  
より抜粋

## 編集委員

村田 太  
野澤 隼希  
飯田 達也  
滝口 直也  
森川 忠幸  
高本 等  
浦谷 正憲